

## 第2回検討WG資料 ～検討会での意見～

- 1.高水敷整備
- 2.外尾川河口部の整備
- 3.海水浴場整備
- 4.保安林の整備
- 5.排水について

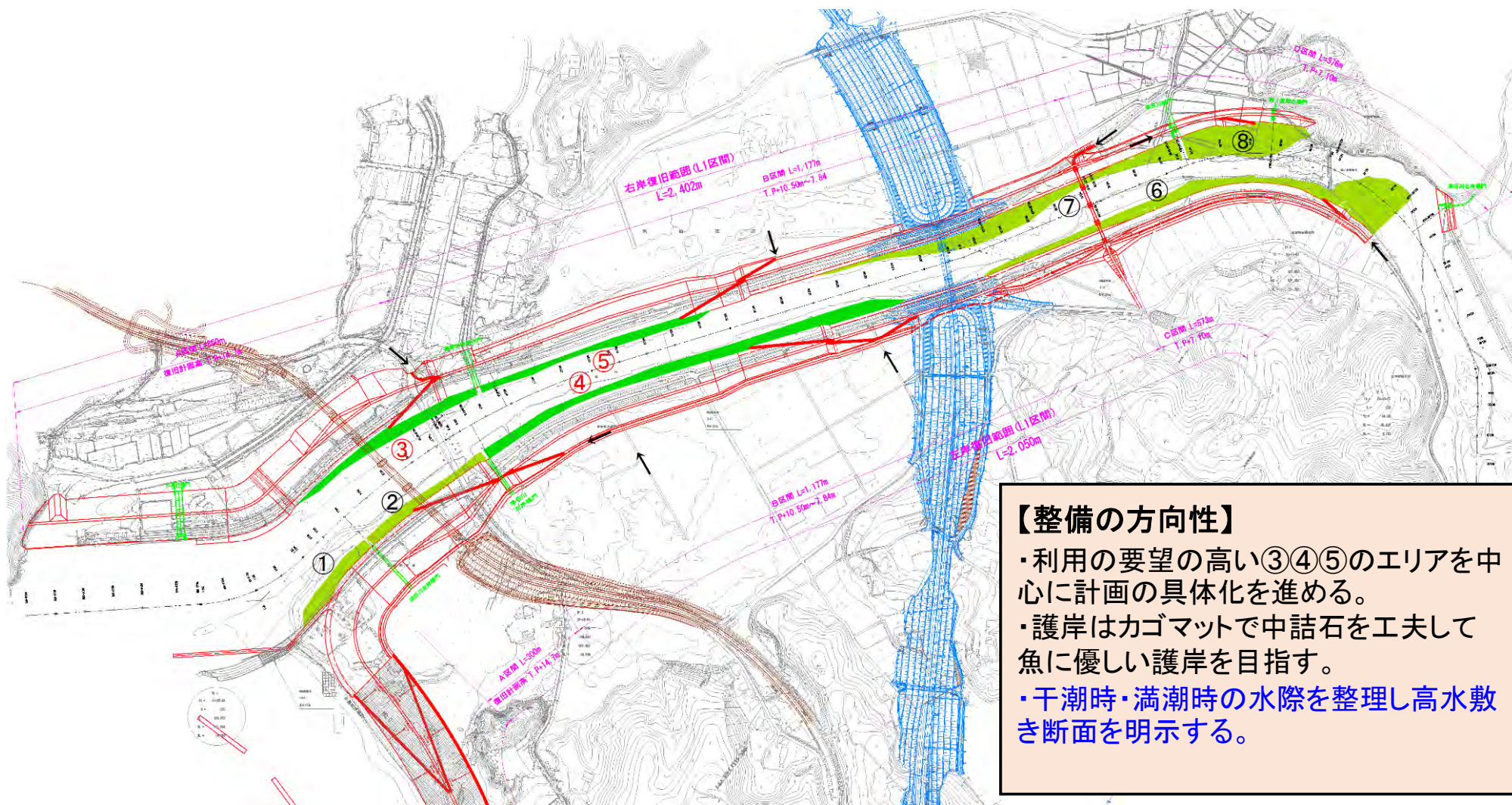
平成26年7月1日

# 1. 高水敷整備(1)

# 検討会における意見

## 【検討会におけるおもな意見】

- ・仮設道路のカゴマット(ふとん箆)が護岸となるということだが、カゴマットは意外と植生が生えにくい。
- ・広域地盤沈下による河口部の変化(生息魚種・生物相)で、方向性が決まると思うが現時点では不明である。
- ・震災目の津谷川河口左岸にはワンドがありカワザンショウが生息していた。震災後はアシハラガニ、スナガニも確認されており、施工時には配慮が必要。



## 【整備の方向性】

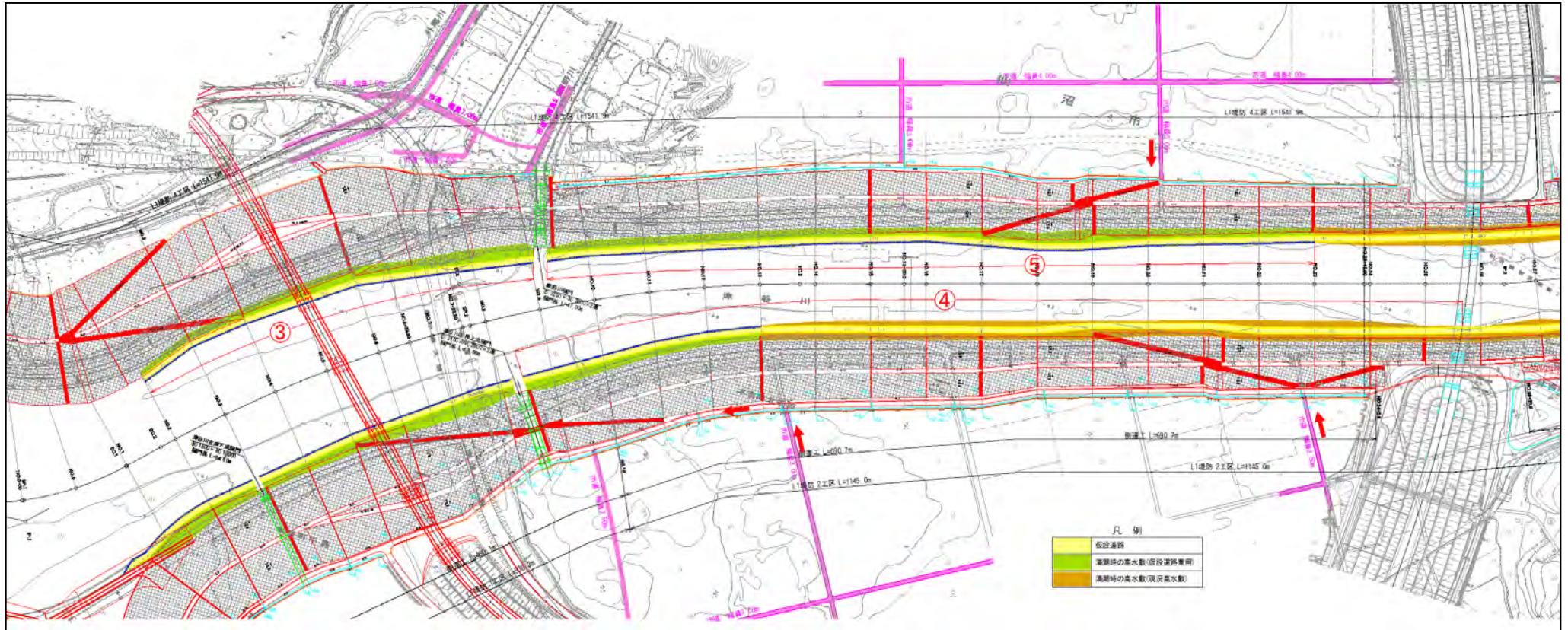
- ・利用の要望の高い③④⑤のエリアを中心に計画の具体化を進める。
- ・護岸はカゴマットで中詰石を工夫して魚に優しい護岸を目指す。
- ・干潮時・満潮時の水際を整理し高水敷き断面を明示する。



# 1. 高水敷整備 (2) 全体平面図：高水敷③～⑤

高水敷は③～⑤の利用中心に整備方針を議論する。

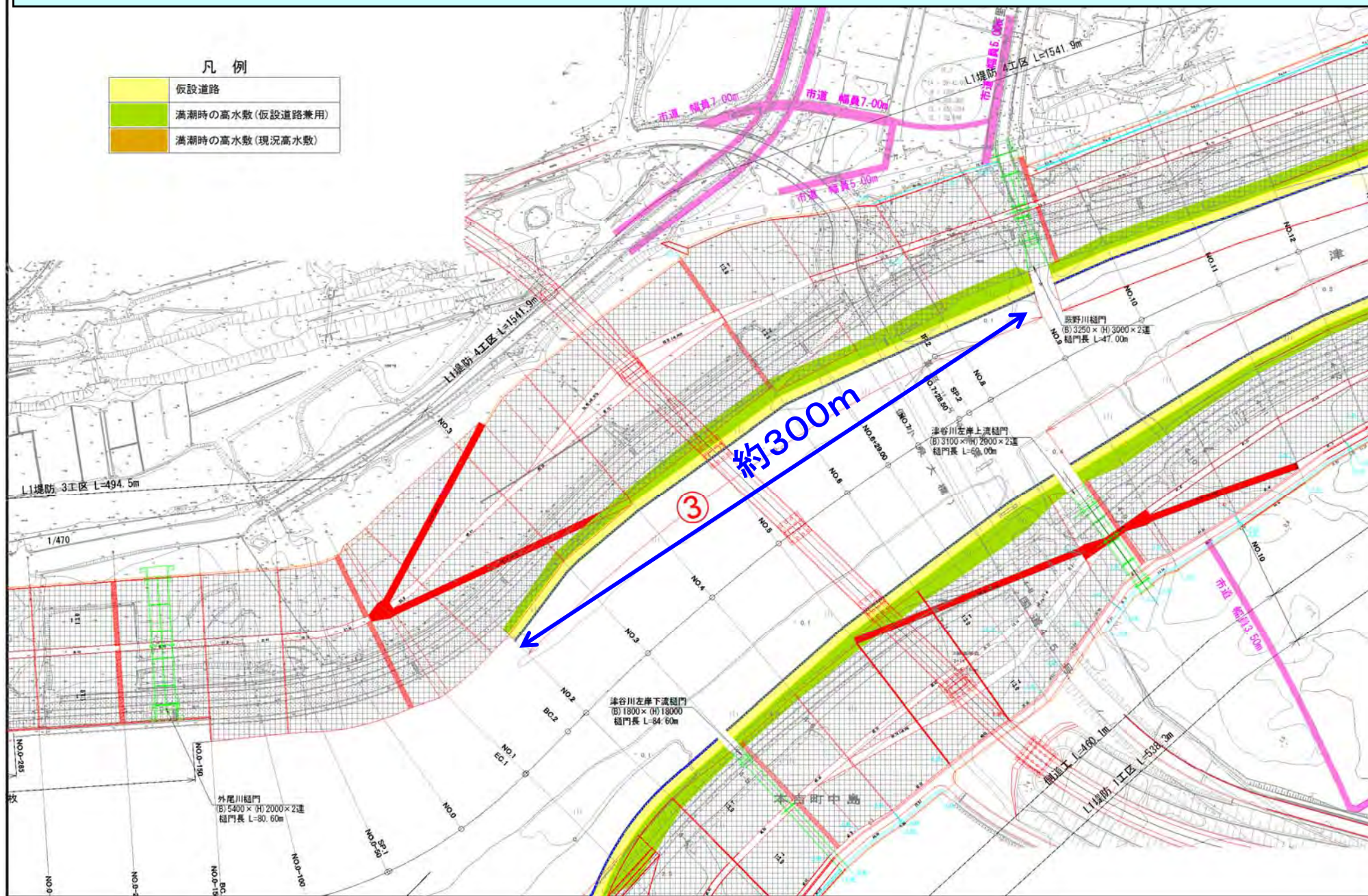
高水敷③～⑤の満潮時の高水敷きは緑色及び茶色の部分となる(黄色は工事用道路)。



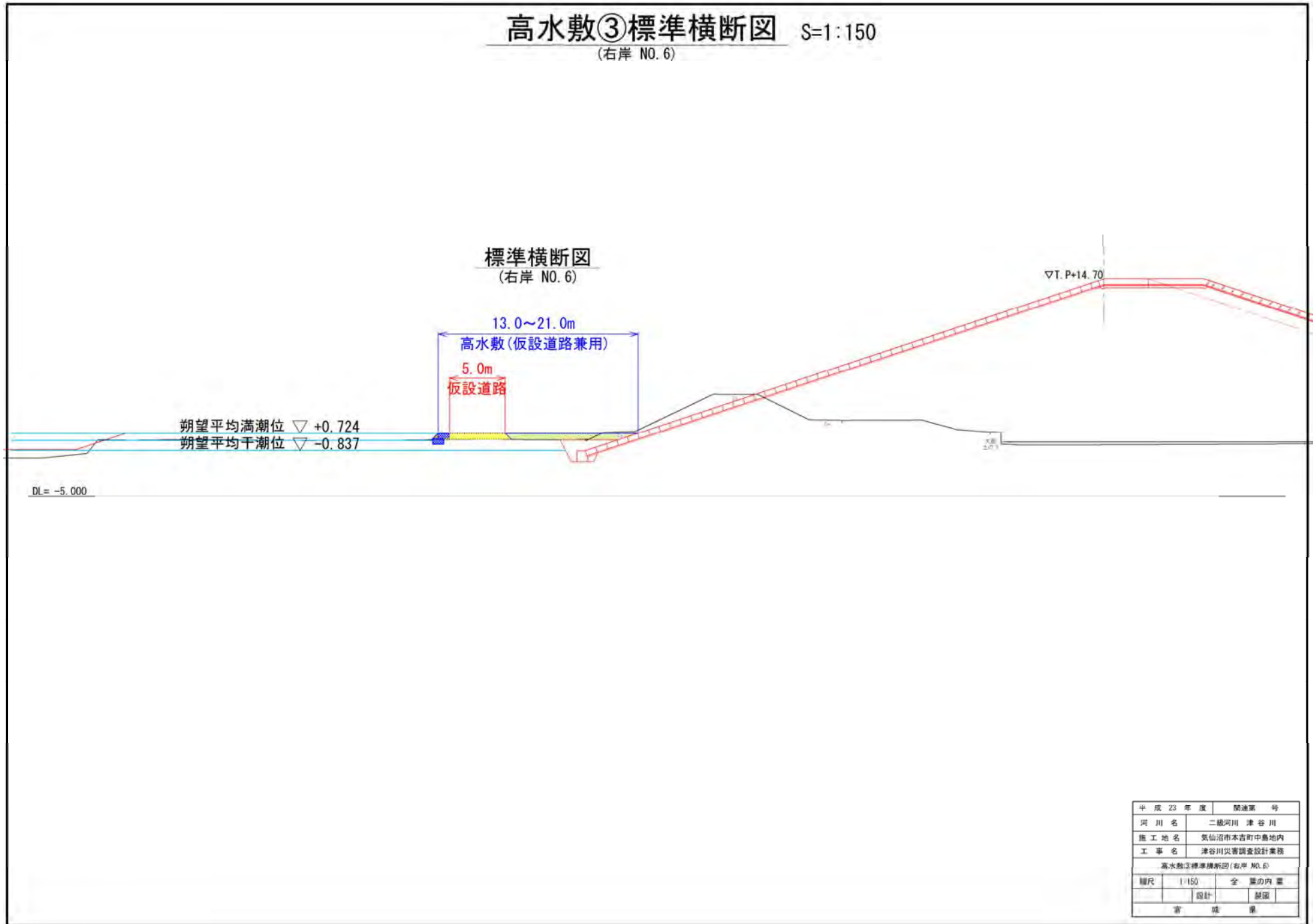


# 1. 高水敷整備 (3) 右岸高水敷③平面図

右岸高水敷③は工事中仮設道路を残存する計画で幅13~21mの高水敷が約300m整備される。



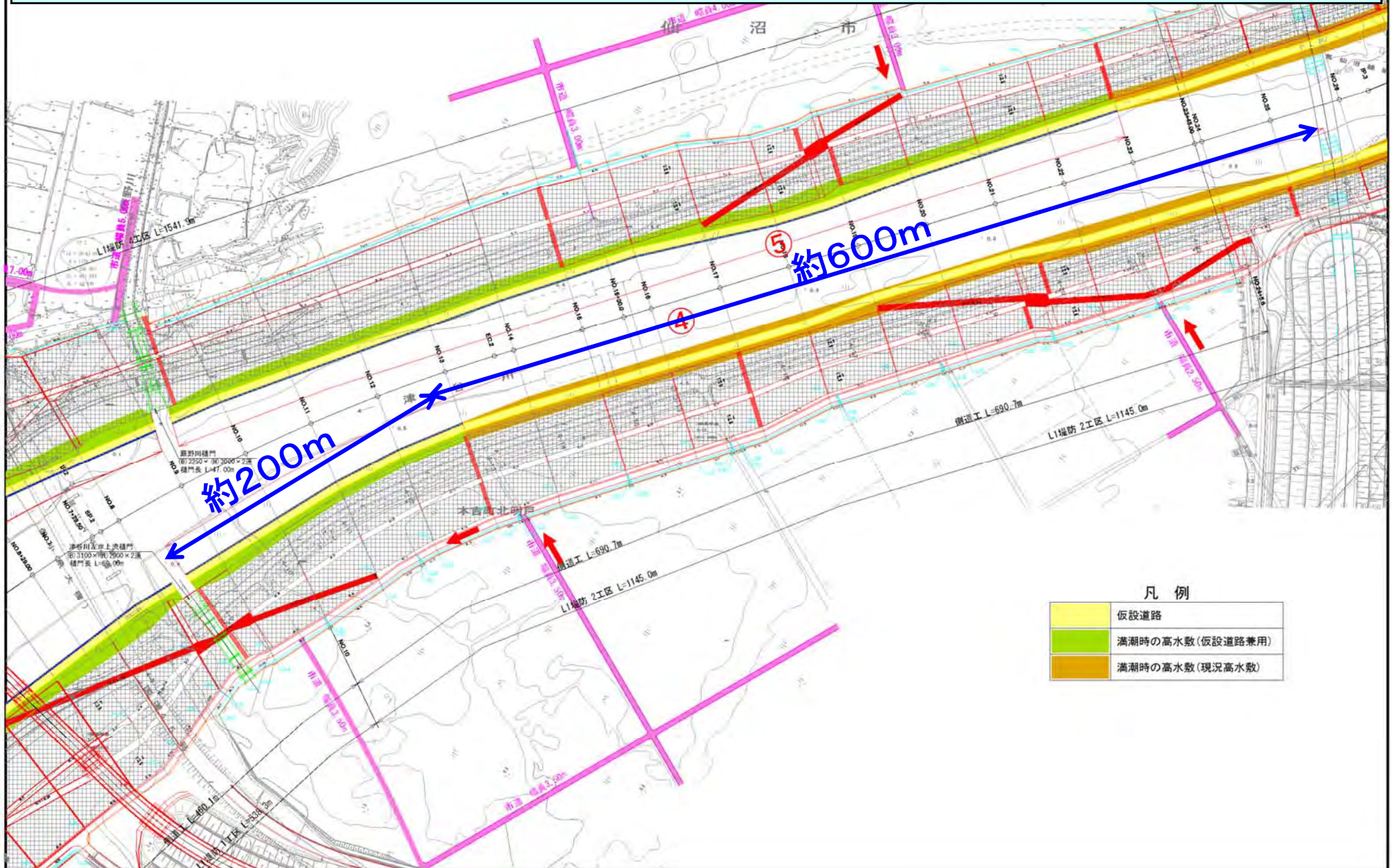
# 1. 高水敷整備 (4) 右岸高水敷③ 標準断面図





# 1. 高水敷整備 (5) 左岸高水敷④平面図

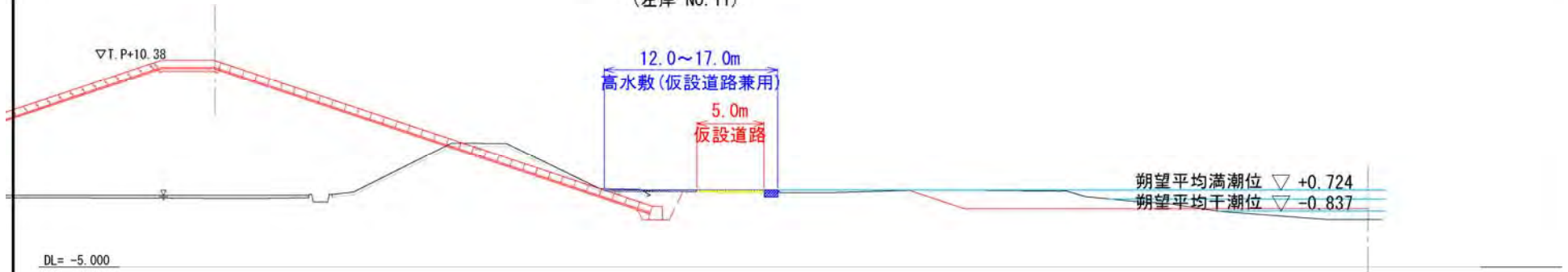
左岸高水敷④は工事用仮設道路を残存する計画で幅12~17mの高水敷が約200m整備される。  
また、上流部では既設高水敷が高いため幅12~19mの高水敷が約600m残る計画となる。



# 1. 高水敷整備(6) 左岸高水敷④ 標準断面図

高水敷④標準横断面図 S=1:150  
(左岸 NO. 11, NO. 18)

標準横断面図  
(左岸 NO. 11)



NO. 18  
GH=0.22  
FH=-0.49

標準横断面図  
(左岸 NO. 18)

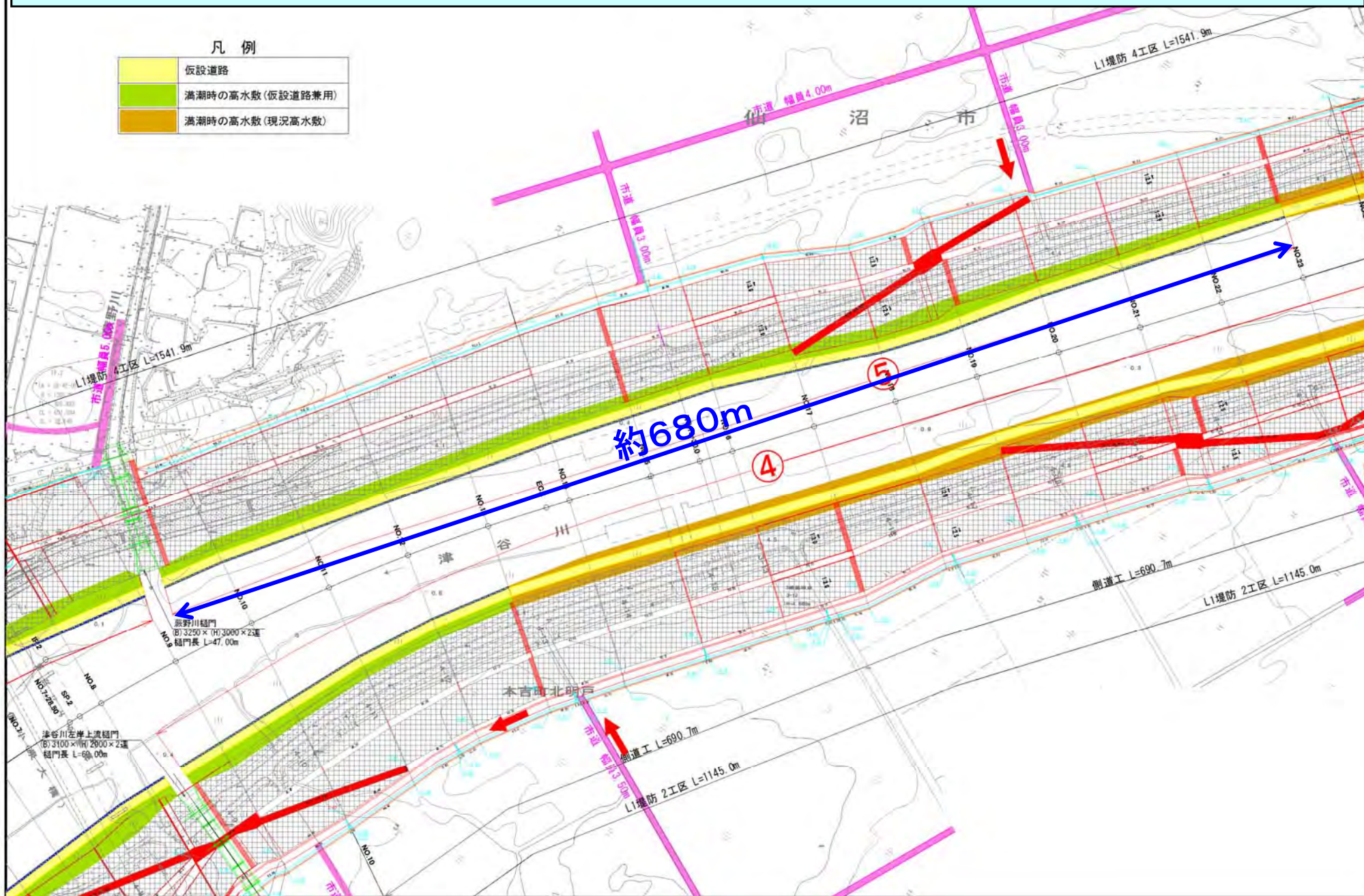


平成 23 年度	関連番号
河川名	二級河川 津谷川
施工地名	気仙沼市本吉町中島地内
工事名	津谷川災害調査設計業務
高水敷④標準横断面図(左岸 NO. 11, NO. 18)	
縮尺	1:150 全 業の内業
	設計 製図
宮	城 県



# 1. 高水敷整備 (7) 右岸高水敷⑤平面図

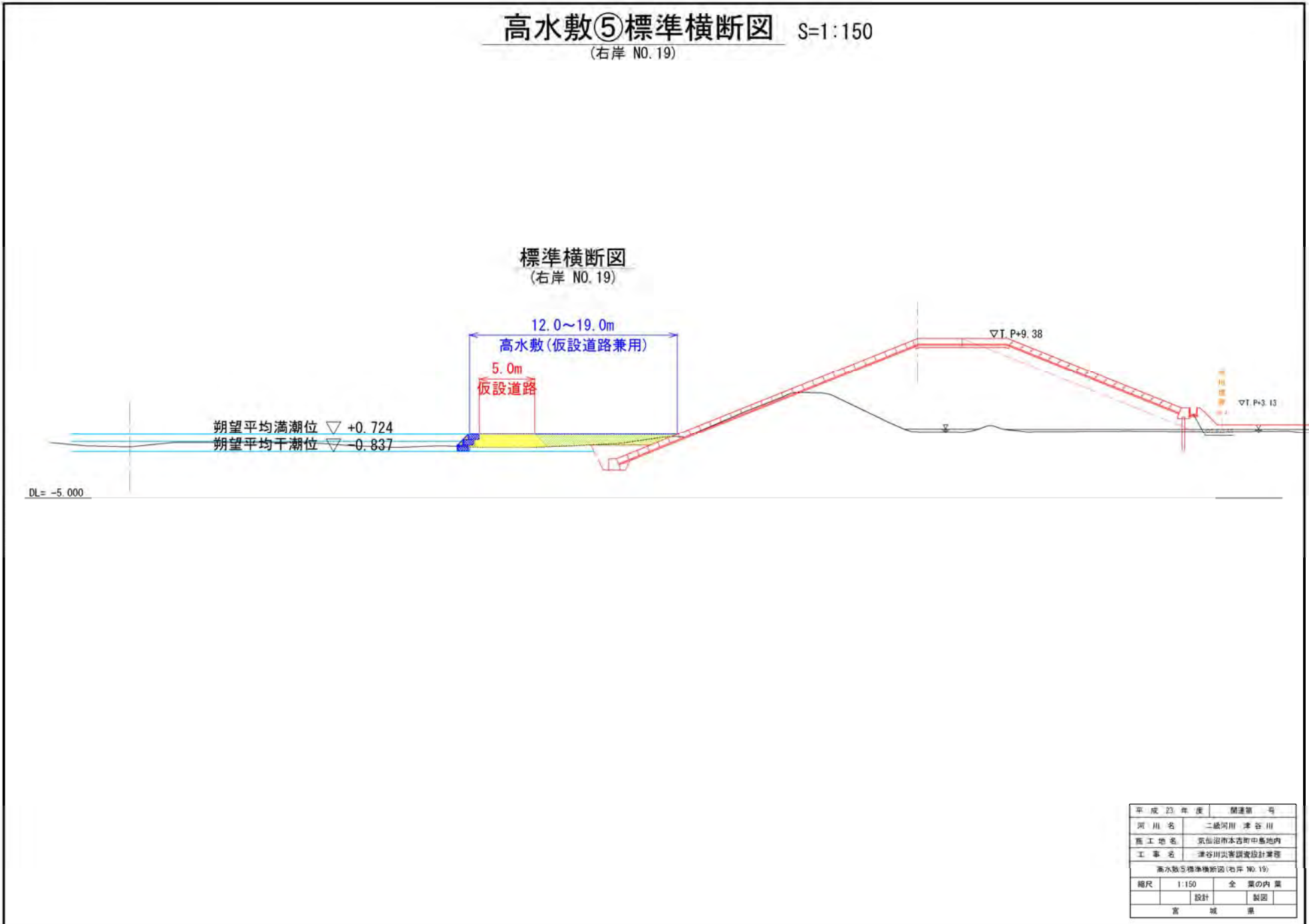
右岸高水敷⑤は工事用仮設道路を残存する計画で幅12~19mの高水敷が約680m整備される。





# 1. 高水敷整備(8) 右岸高水敷⑤ 標準断面図

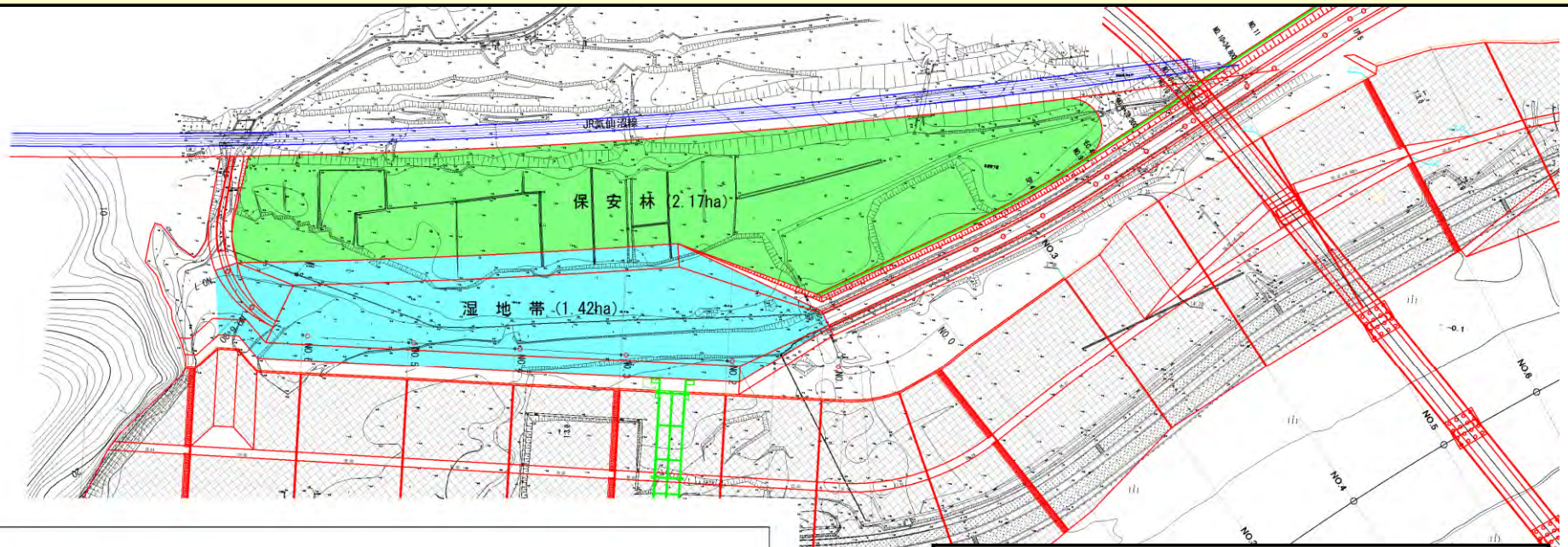
高水敷⑤標準横断面図 S=1:150  
(右岸 NO.19)



## 2. 外尾川河口部(1) 検討会における意見

### 【検討会におけるおもな意見】

- ・一般的な干潟というのは1/3くらいが海水。現在は海に近くなっている。堤防が作られると河川からの淡水の流入がある限り、海水にはならないため、干潟的な環境は保たれるであろう。
- ・干潟の塩分濃度は上流からの淡水供給があれば問題はない。干潟は水質浄化としての機能もあるため、できるだけ緩い斜面を造成し、自然の成り行きに任せると良いのでは。
- ・地下水供給があればヨシは生育できるので、現場でチェックすればヨシ原が回復するかどうかあたりはつけられると思う。
- ・津谷川右岸防潮堤と外尾川の間平地は、環境教育に活用することを観点に整備を進めていくと良い。
- ・なるべく多様な環境をもつ干潟を残すことがポイントとなる。(施工時の低質のミティゲーションも有効であるだろう。)
- ・魚類については、津谷川自体が良い川なので、外尾川河口干潟での魚類生息場機能はそれほど重視しないで良いと思う。
- ・底生動物は今までの調査対象に入っていないので。ぜひ調査をしてデータをとった方が良い。

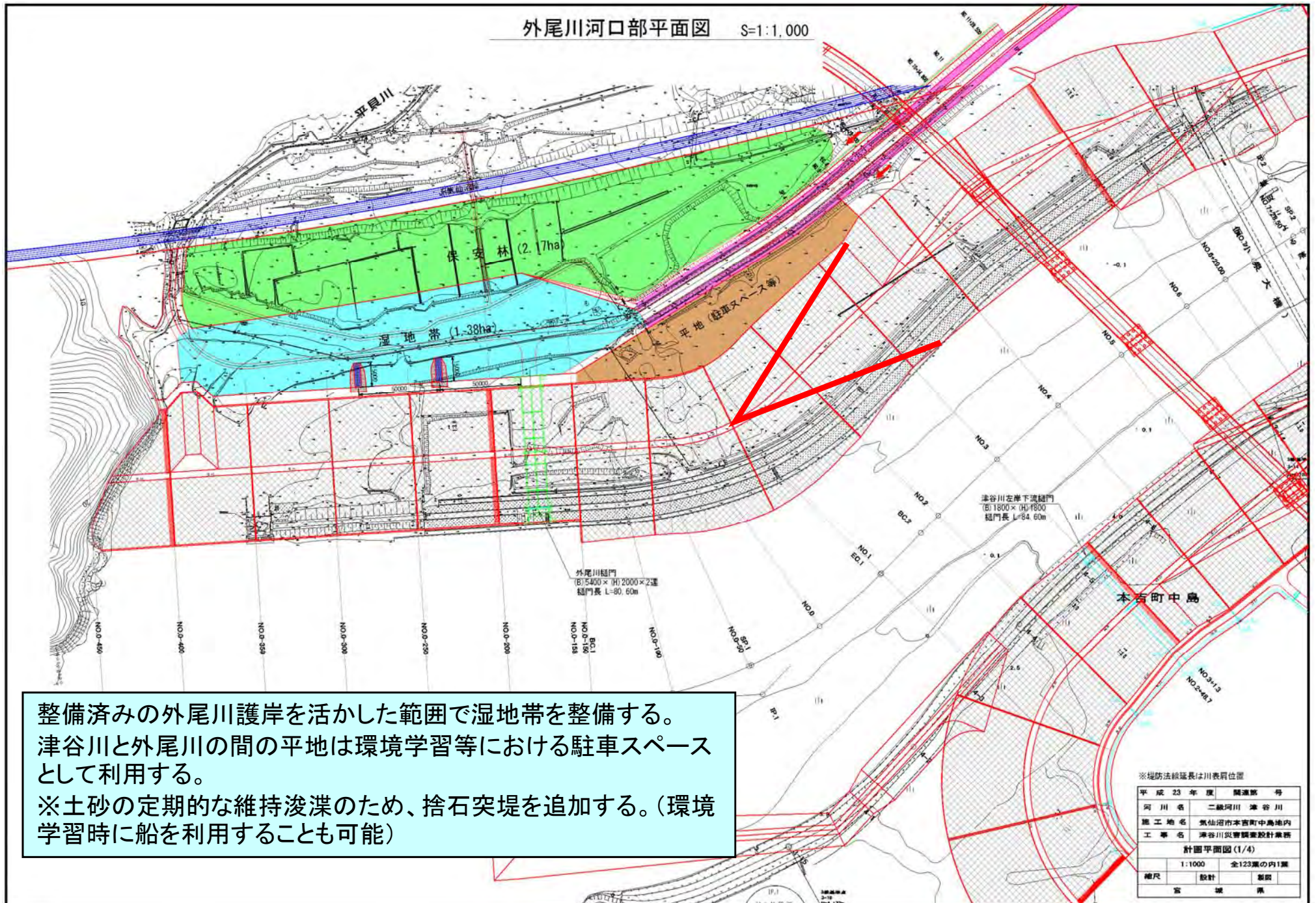


### 【整備の方向性】

- ・既存の護岸を活かした1案をベースに検討を進める。
- ・湿地帯の断面案を提示する。

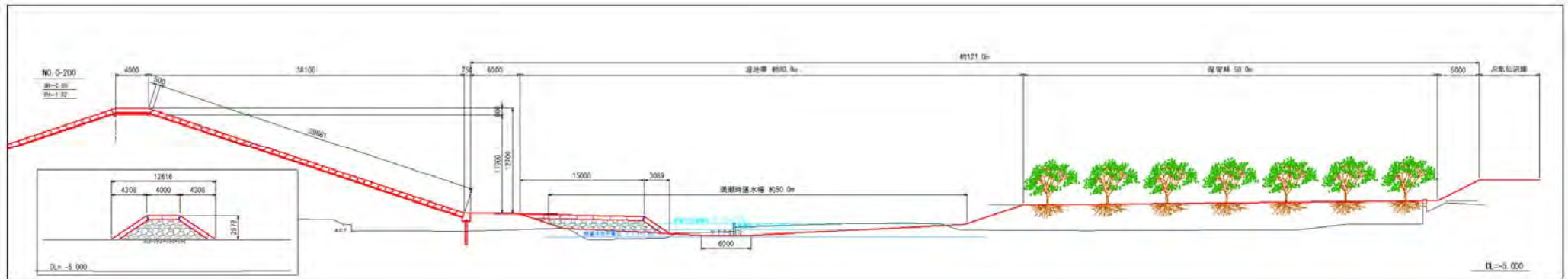


## 2. 外尾川河口部(2) 環境整備平面図



## 2. 外尾川河口部(3) 湿地整備案の提案

湿地帯を緩傾斜(1:20)に整備して震災前の湿地環境の回復を目指す。  
左岸(津谷川堤防側)への土砂堆砂を管理するため、突堤を設ける。





## 2. 外尾川河口部(4) 樋門位置の選定

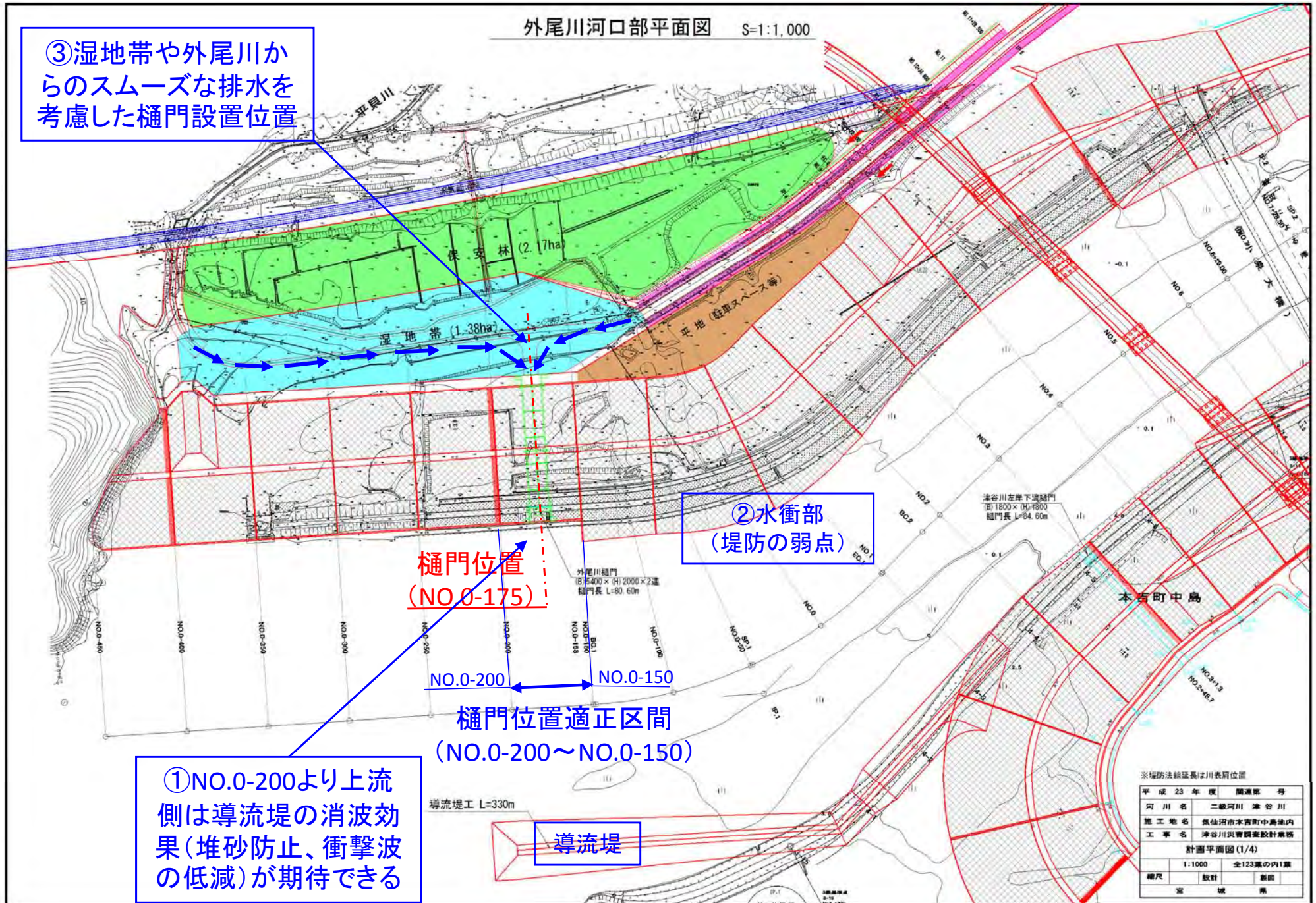
### (1) 樋門位置選定の基本方針

- ① 樋門前面の堆砂防止やゲートへの衝撃波低減を期待できる位置  
⇒ すなわち、左岸側の導流堤による消波効果が期待できる位置  
⇒ 測点NO. 0-200より上流側
  - ② 堤防の弱点部(水衝部に樋門設置)回避と施工性の面から、堤防の直線区間に設置  
⇒ 測点NO. 0-150より下流側
- 上記①②より樋門位置は、  
測点NO. 0-200~NO. 0-150(樋門位置適正区間)  
の範囲に限定される。

### (2) 樋門位置の選定

- ③ 湿地帯や外尾川からのスムーズな排水を考慮し、樋門位置適正区間(測点NO. 0-200~NO. 0-150)の中央とした。  
⇒ 樋門位置: 測点NO. 0-175

## 2. 外尾川河口部(5) 樋門位置の選定





## 2. 外尾川河口部(6) 樋門位置の選定 (地盤条件)

津谷川平面図

樋門位置  
(NO.0-175)

津谷川右岸縦断面図

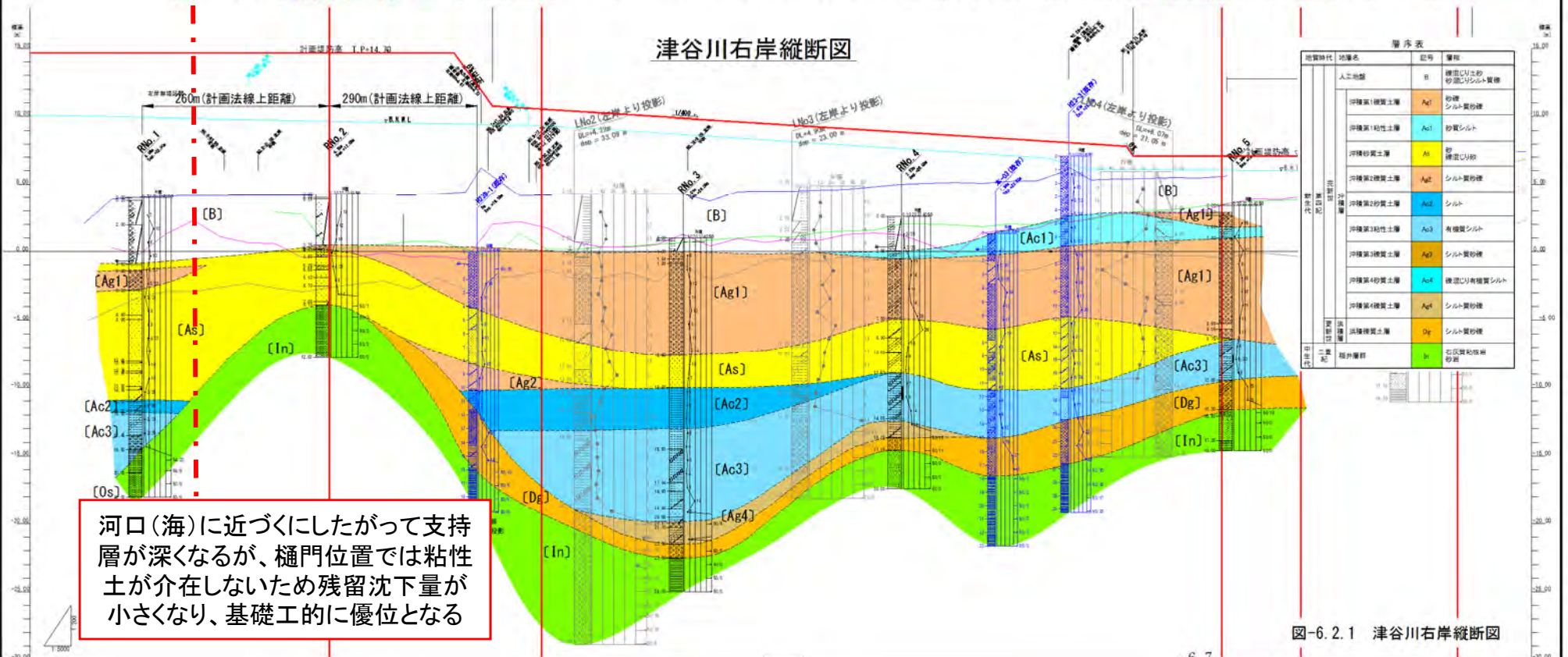


図-6.2.1 津谷川右岸縦断面図



### 3. 海水浴場の整備(3) 検討会における意見

#### 【検討会におけるおもな意見】

- ・利用観点なので、もっと楽しい施設、景観にあったような施設を造ると良い。
- ・砂浜環境は重要で、防潮堤の下敷きになってくる砂を「資源」として活用すると良いと考える。
- ・緑の防潮堤は、なかなか難しいと思われる。
- ・海岸前面には砂がついてきて回復基調。堤防工事の際は、置き置きするなど、戻ってきている生物に対する配慮が必要。
- ・離岸堤も現在砂浜が回復中である実態を踏まえて、慎重に計画すべき。

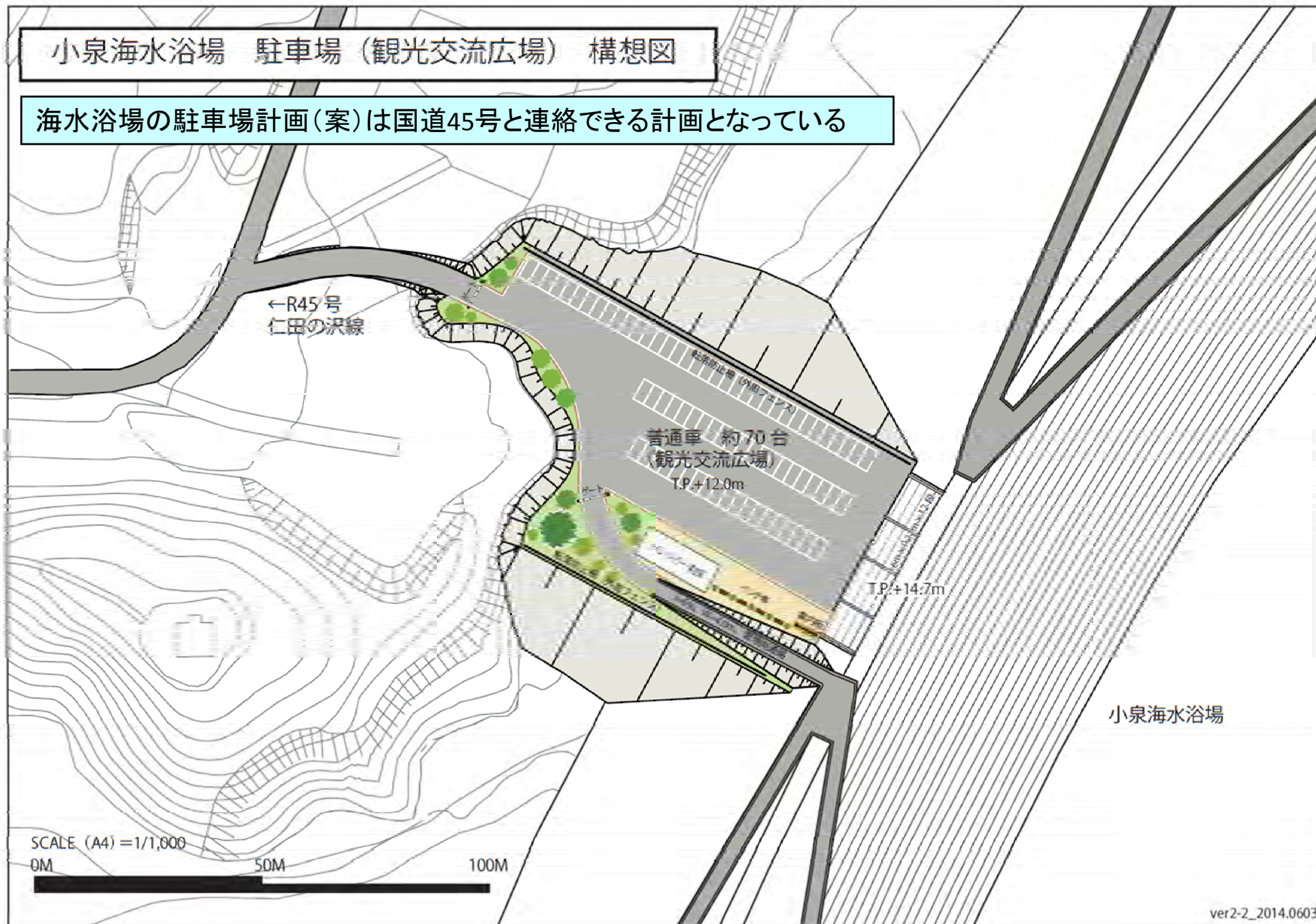


#### 【整備の方向性】

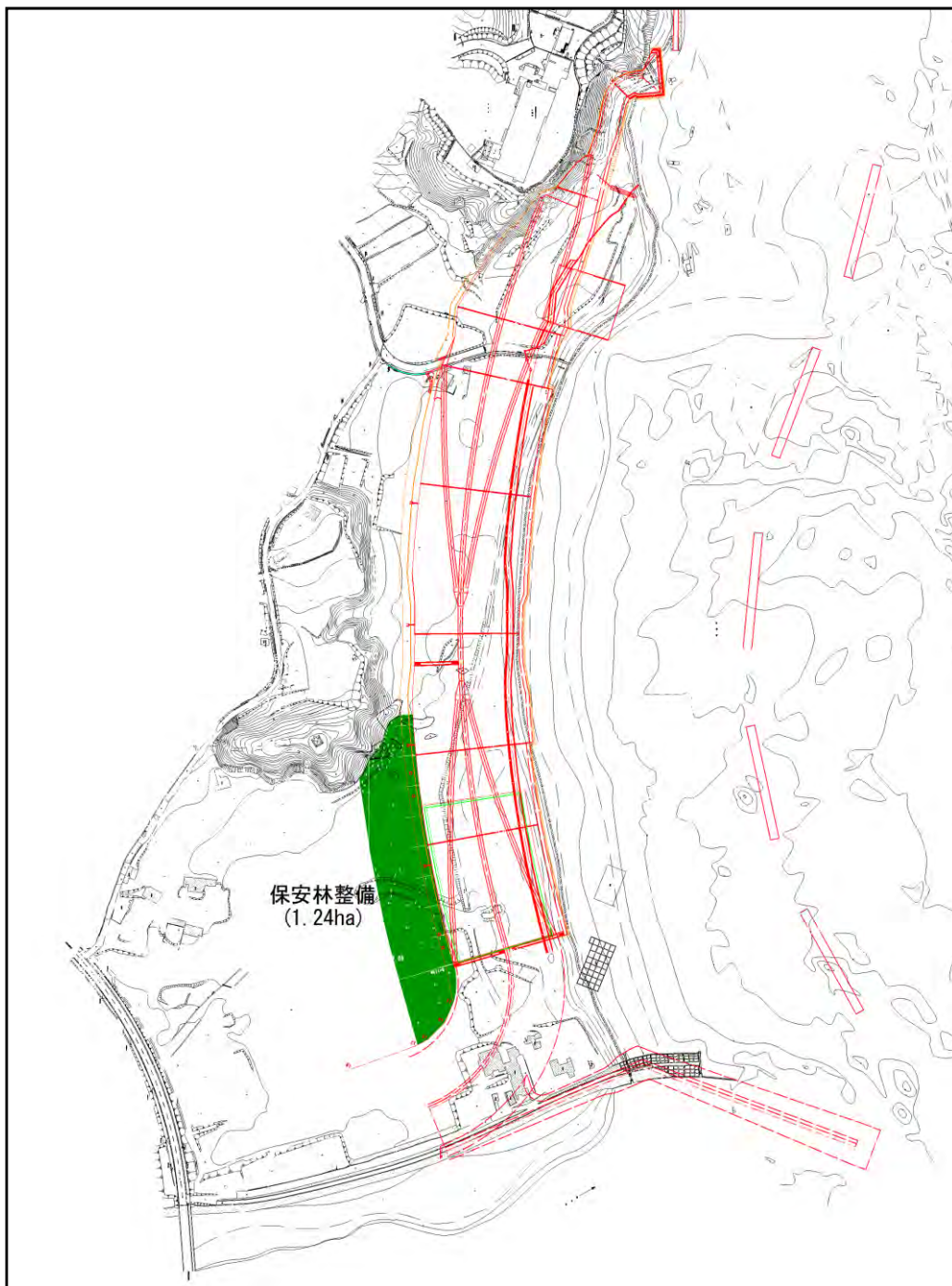
- ・素案を作成し議論を進める。
- ・景観に配慮した整備を検討する。



### 3. 海水浴場の整備(2) 駐車場構想図



## 4. 保安林整備[中島海岸] 検討における意見



### 【検討会におけるおもな意見】

- ・常緑広葉樹をいきなり植えるのは危険。
- ・潮風・砂で生える種を植え次いでいきながら、長期的にやっていくことが課題。
- ・林業セクションとも議論して、宮城県らしい森をつくるべき。

### 【整備の方向性】

- ・保安林整備の方向で具体的な検討を進める。



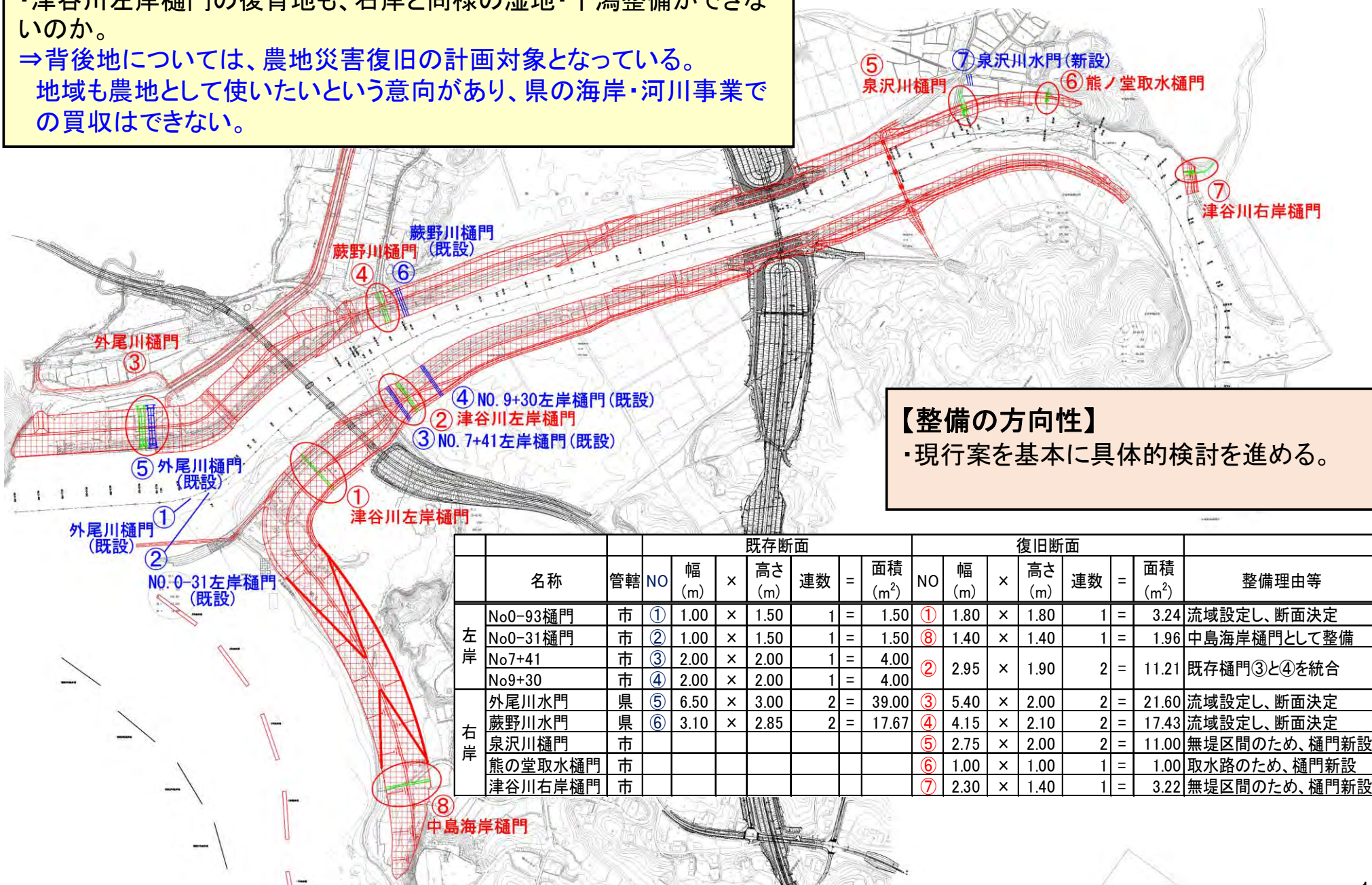
# 5. 排水について 検討における意見

## 【検討会におけるおもな意見及び回答】

・津谷川左岸樋門の背後地も、右岸と同様の湿地・干潟整備ができないのか。

⇒背後地については、農地災害復旧の計画対象となっている。

地域も農地として使いたいという意向があり、県の海岸・河川事業での買収はできない。



**【整備の方向性】**  
 ・現行案を基本に具体的検討を進める。

	名称	管轄	NO	既存断面				復旧断面				整備理由等	
				幅 (m)	×	高さ (m)	連数 = 面積 (m <sup>2</sup> )	NO	幅 (m)	×	高さ (m)		連数 = 面積 (m <sup>2</sup> )
左岸	No0-93樋門	市	①	1.00	×	1.50	1 = 1.50	①	1.80	×	1.80	1 = 3.24	流域設定し、断面決定
	No0-31樋門	市	②	1.00	×	1.50	1 = 1.50	⑧	1.40	×	1.40	1 = 1.96	中島海岸樋門として整備
	No7+41	市	③	2.00	×	2.00	1 = 4.00	②	2.95	×	1.90	2 = 11.21	既存樋門③と④を統合
	No9+30	市	④	2.00	×	2.00	1 = 4.00						
右岸	外尾川水門	県	⑤	6.50	×	3.00	2 = 39.00	③	5.40	×	2.00	2 = 21.60	流域設定し、断面決定
	蕨野川水門	県	⑥	3.10	×	2.85	2 = 17.67	④	4.15	×	2.10	2 = 17.43	流域設定し、断面決定
	泉沢川樋門	市						⑤	2.75	×	2.00	2 = 11.00	無堤区間のため、樋門新設
	熊ノ堂取水樋門	市						⑥	1.00	×	1.00	1 = 1.00	取水路のため、樋門新設
	津谷川右岸樋門	市						⑦	2.30	×	1.40	1 = 3.22	無堤区間のため、樋門新設